

日医発第 1133 号 (総務)  
令和 5 年 10 月 2 日

都道府県医師会長 殿

公益社団法人 日本医師会  
会長 松本 吉郎  
(公印省略)

### 令和 5 年度「食育健康サミット」のご案内

拝啓 平素は本会会務運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本会では、平成 2 年度より公益社団法人米穀安定供給確保支援機構との共催で、食育の推進に資することを目的とした「食育健康サミット」を開催しております。

従来、本サミットは日本医師会館にて集合形式で開催していたため、ご案内は関東近県のみ限定しておりましたが、令和 2 年度以降オンデマンド方式に切り替えましたところ、全国から非常に多くの会員の先生方にご参加いただけるようになりました。

今年度は、「“将来の自分”を意識した生活習慣の重要性～小児期・若年期からの「日本型食生活」を通じた健康づくり～」をテーマに開催し、別紙概要案にある通り、専門家の方々からご講演いただいた模様を、12 月 1 日(金)から来年 2 月 28 日(水)まで配信する予定としております(参加費無料・要申込)。

その他、詳しい内容は米穀安定供給確保支援機構のウェブサイト(米ネット <https://www.komenet.jp/> 内「食育健康サミット 2023」バナー)、または、日医雑誌(令和 5 年 11 月号)に同封予定のチラシにてご確認いただけます。

配信期間終了後には、例年通り講演内容を基にした冊子を作成の上、貴会分として 200 冊をお送りするほか、日医雑誌(令和 6 年 4 月号)にも同封予定としております。

以上、今年度サミット開催についてご承知置きくださいますとともに、貴会管内郡市区等医師会等への周知方について、ご協力いただけますと幸いです。よろしく願い申し上げます。

敬具

## 令和5年度「食育健康サミット」の実施概要（案）

## 1 趣旨

「食育健康サミット」は、食育の推進及び生活習慣病の予防・治療の視点から、生活習慣、特に食生活について、医学、栄養学の専門家の方々に論議していただき、全国の医師、管理栄養士等に対して、ごはんを主食とした日本型食生活の有用性等への理解・実践を促し、一般消費者・生活者に広く普及・啓発することを目的とする。

## 2 本年度のテーマ

「“将来の自分”を意識した生活習慣の重要性

～小児期・若年期からの「日本型食生活」を通した健康づくり～

メタボリックシンドロームや生活習慣病などの予防には、生活習慣の見直しと継続が重要であり、社会全体の課題として、生活習慣の改善に向けた取組み、支援等が推進されてきた。本サミットでも、これまで、こうしたテーマに基づくシンポジウムを開催してきたが、昨年度からは、あらためて、ライフステージにフォーカスし、それぞれの健康課題と対策を提案し、健康寿命延伸について考える機会を提供する取組を実施しており、第1弾として、働き盛りのミドル世代の食生活・運動習慣の改善のポイント等を取り上げたところである。

本年度は第2弾として、「“将来の自分”を意識した生活習慣の重要性」をテーマに、小児期から若年期の健康課題とその具体的な方策について考えていきたい。

折しも、本年5月に策定された「二十一世紀における第三次国民健康づくり運動＜健康日本21（第三次）＞」の4つの基本的な方向のひとつとして、「ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり」が掲げられ、幼少期からの生活習慣や健康状態は成長してからの健康状態にも大きく影響を与えること、妊婦の健康増進がこどもの健康にも影響すること、高齢期に至るまで健康を保持するためには、若年期からの取組が重要であること等を踏まえ、「児童・生徒における肥満傾向児の減少」、「若年女性のやせの減少」に関する目標があらためて設定されたところである。これらは、これまでも健康増進に係る重要課題として取り上げられているが、なかなか改善の方向に向かうまでには至っていない。

肥満は、がん、循環器病、2型糖尿病等と、若年女性のやせは、骨量の減少、低出生体重児出産リスク等との関連があり、生活習慣病の予防・重症化予防や生活機能の維持・向上の観点から、若いうちから食生活や運動習慣を見直して、バランスの良い食事の摂取等、健康的な生活習慣を習得することは、極めて重要と考えられる。

本シンポジウムでは小児期から若年期における悪しき生活習慣の将来的なリスク、食生活・運動習慣をはじめとする生活習慣改善のポイント、日本型食生活の意義と活用法等について、それぞれの疾患、生活指導、栄養、運動の専門家からアドバイスいただきながら、健やかな健康習慣を身につけ健康寿命を延ばすためには、どのような指導・普及支援等を行えばよいのかについて、医学的・栄養学的に考察することとする。

## 3 開催時期等

(1) 収録日時 令和5年11月9日（木）12:00～17:00（予定）

配信期間 令和5年12月1日～令和6年2月28日

(2) 収録会場 日本医師会館 大講堂 東京都文京区本駒込2-28-16

(3) 主催 公益社団法人 日本医師会 公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構

(4) 対象者 医師、管理栄養士、保健師、栄養・食事指導担当者等

(5) 後援（予定）農林水産省 公益社団法人日本栄養士会 一般社団法人日本血栓止血学会 特定非営利活動法人日本高血圧学会 一般社団法人日本循環器学会 一般社団法人日本心臓病学会 一般社団法人日本腎臓学会 一般社団法人日本糖尿病学会 一般社団法人日本動脈硬化学会 一般社団法人日本内科学会 一般社団法人日本脳卒中学会 一般社団法人日本肥満学会 公益社団法人日本小児科学会 公益社団法人

人日本小児科医会 公益社団法人日本小児保健協会 公益財団法人日本学校保健  
会 特定非営利活動法人日本栄養改善学会 公益社団法人日本栄養・食糧学会  
一般社団法人日本臨床栄養学会

#### 4 参加証等 (予定)

日本栄養士会生涯教育単位 実務研修 全分野共通 (90-110) 講義1単位

#### 5 シンポジウムの概要 (敬称略)

オンライン開催 (事前収録によるオンデマンド配信とする)

講演は4演題、1講演30分とし、その後座長とのディスカッション10分)

◇◇◇

主催者挨拶

公益社団法人 日本医師会

公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構

座長 帝京大学臨床研究センター センター長

寺本内科・歯科クリニック 内科院長

寺 本 民 生

講演1

「胎児期から始まる小児・思春期の健康課題」

国立成育医療研究センター内分泌・代謝科診療部長

堀 川 玲 子

講演2

「こどもの生活習慣病と食の重要性」

和洋女子大学家政学部健康栄養学科教授

都立広尾病院小児科

原 光 彦

講演3

「若い女性のやせと健康リスク」

順天堂大学国際教養学部グローバルヘルスサービス領域教授

順天堂大学大学院医学研究科代謝内分泌内科学准教授

田 村 好 史

講演4

「将来の健康を見据えた栄養と食事」

神奈川県立保健福祉大学名誉学長

公益社団法人日本栄養士会代表理事会長

中 村 丁 次

まとめ

帝京大学臨床研究センター センター長

寺本内科・歯科クリニック 内科院長

寺 本 民 生

#### 6 シンポジウムのフォローアップ

本シンポジウムの内容を、新聞等マス媒体やインターネット、消費者向けパンフレット等を活用して、国民への浸透を図ることとする。